

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400066		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム月の里		
所在地	千葉県若葉区中田町1103-1		
自己評価作成日	令和4年3月9日	評価結果市町村受理日	令和4年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が安心して健康に暮らせるように、医療体制の充実が図られています。内科・精神科・歯科の定期受診が導入されています。体調の変化に注意を払い、健康に努めています。医師・病院との連携が図られ職員一丸となって取り組んでいます。散髪は無料で提供しており、利用者様ご家族様にご大変喜んで頂いております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりのペースを尊重しており、利用者職員はゆったりと過ごしている。リビングでは、みんなでゲームをしたり歌を歌ったり、折り紙で作品を作ったり、一人でぬり絵や字の練習をする利用者もいる。食事は手作りで、旬の食材を取り入れるようにしており、行事食では、ちらし寿司や煮物など利用者の希望を取り入れている。ホームのモットーは「安心してのんびり暮らす」であり、その実現に向けて、職員は利用者の支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない(コロナ禍の為)
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない(コロナ禍の為)
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各棟に掲示しており、施設長を中心に職員と常に運営上の方針や目標などを話し合っている。	「安心して暮らす。のんびり暮らす。尊厳のある生活を支援する。」などを盛り込んだ理念はホーム内に掲示したり、プリントを配付し職員に周知している。また、月に数回の申し送りや全体会議時に話し合い、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や消防訓練の時など、近隣の方に声を掛け、参加して頂いている。昨年度と同様に、今年度もコロナ禍においてやむなく中止となっている。	以前はホームの防災訓練や行事に近隣の人にも参加してもらっていたが、コロナ禍のため、中断している。近所の方が花や野菜を持ってきてくれるなど、良好な関係である。散歩では、会う人に挨拶をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サービス内容や行政の施策などの報告を行ってきたが、ここ2年はコロナ禍で中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に続き、コロナ感染予防の観点から中止している。	コロナ禍のため、運営推進会議は開催していない。以前は、地区代表や地域包括支援センター職員、利用者代表、施設長、計画作成者等の参加で開催され、さまざまな議題で話し合っていた。	コロナ禍において、運営推進会議は対面ではなく書面開催が認められており、ホームの取り組みを参加者に送付し、意見をもらうなどの方法も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に電話でのやり取りが主流となっている。必要に応じ、助言等頂きながら手続き代行や入院等の対応を相談、連絡している。	行政の担当者とは、何かと連絡を取り合っている。コロナ禍で電話で話すことが多いが、相談などにも乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍で研修には参加できなかったが、職員同士声掛けなどをし、常に意識している。	身体的拘束適正化の指針を整備し、止むを得ず実施する場合は、指針に沿って適切に対応することになっている。また、研修はできていないが、職員には口頭で指導している。	身体拘束廃止に関する委員会を3か月に一回以上開催したり、定期的な職員研修の実施が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍の中、研修参加できないが、参考を職員に配布し予め目を通してもらい、時間がある時に職員同士話す機会を設けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修がある時は、参加し知識をつけるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等の説明に時間をかけている。利用者様やご家族様に理解していただき、不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見の反映については、コロナ禍において面会制限を実施しており、充分とは言えない状況にある。入居者様の状態変化等は電話にて報告し、意見を聞いている。	職員は、日常のケアの中で積極的に話しかけたり、傾聴を心掛け、利用者の意見の把握に努めている。家族からは、面会時や電話があった時に意見や要望を聞き取っている。喫煙の要望があり、ルールを決め対応している事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で意見の交換を行っている。運営に関する職員の意見を、管理者を交えて話し合う機会を設けている。	毎朝のミーティングや職員会議、個別面談等で職員の意見を聞く機会を設けている。職員会議の参加者は少なく、要望等は管理者が直接聞くこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が常に職員の勤務状況を把握し、働きやすい環境になるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資料を作成し、研修に参加できなかった職員にも行き届くよう配慮。普段から繰り返し見直して身につけるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在交流する機会そのものがない状態にある。系列関係にある施設間では、主に電話FAXで密な連携に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに慣れていただく段階で、不安を取り除くため極力声掛けしている。言葉や要望に傾聴し安心した生活が築けるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の話をよく聞き、どのようなことを求めているのか理解するよう努めている。安心して入居していただけるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの話をよく聞き、専門家としての判断をし、何が利用者のためになるのかを考えて援助するようにしています。希望に添える様、健康面や家族の要望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として敬い、毎日楽しく過ごせる支援を提供。喜怒哀楽を共にして支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を理解し、本人と家族の絆を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも訪ねてきてくれたり、友人などから連絡があれば伝え、面会の機会につながるよう支援していますが、今はコロナ禍にてご遠慮していただいている。	コロナ禍前は、友人や知人の訪問もあった。現在は、電話の取り次ぎや手紙のやり取りを手伝うことで、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの方々が、孤立せず助け合って交流しあえる様支援している。レクリエーションへの参加や簡単な共同作業の機会を提供している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への移動や入院されても面会に行き、ご家族の相談・助言に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	感情や意思の表出が困難な方には、言動を詳細に観察し導き出すよう寄り添っている。生活歴など参考に一人一人の要望に傾聴している。	職員は利用者とできるだけ会話するようにして、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、言動を観察している。把握した内容は申し送りや介護日誌に記録し、職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞くだけでなく、ご家族やこれまでのサービス提供者からも情報収集するよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や心身の状況を観察し、小さな変化にも気付ける様、心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで職員が話し合い、家族の面会時に説明し、適切な対応ができる様、計画を立てている。	入居後2週間は暫定プランを作成し、安全を優先したケアに努め、その後はミーティング時の職員意見を踏まえ、計画作成担当者が介護計画を作成している。モニタリングは毎月おこなって評価し、6か月ごとの見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別に記録すると共に、毎日情報交換のための話し合いを行い、必要があれば計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉や介護、医療制度について学び、介護の方法や相談に応じる旨をご家族にお伝えするよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方の協力をいただきながら、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診を導入している。異常時には速やかな対応ができるよう、医師や病院との連携が速やかにいくよう情報提供や相談をしている。	毎日のバイタル測定で利用者の日常の健康観察をおこなっている。また、ホームの協力医への定期的な受診や、従来からのかかりつけ医の受診を支援している。急変時は主治医に連絡しており、必要に応じ看護師が訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に、心身の状況や対応について、医師や看護師から情報提供・指導を受けている。インターネットからの情報も参考にして学んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、面会を頻繁に実施し、安心して療養できるよう支援している。医療関係者と情報共有できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師からの情報をもとに、なるべく早い時期からご家族・行政と相談し、方向性を話し合っている。	ホームの方針として看取りは実施していない。ベッド上の生活になっても、経口摂取が可能な限り、医師と連携しホームで支援することを家族に伝えている。ホームでの支援が困難になった場合は、協力病院への入院、もしくは行政と話し合い方向性を決めている。	ホームとして重度化した場合の支援方法や看取りに関するホームの方針を明文化すると共に、家族に説明して同意を得ることも必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は、施設長に連絡するとともに、緊急時の対応マニュアルに従い対応。定期的に勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、職員が避難誘導等ができるようにしている。コロナが明けたら、消防署の方からの指導を再開したいと考えている。	防災訓練を年2回おこなっている。また、次年度には夜勤者の訓練の参加を予定している。食料などの備蓄品は、厨房職員が期限や在庫を確認している。	新設のホームのため、避難経路に未整地の部分があり、移動が困難な部分があるとの事なので、整備が期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう、本人の気持ちに配慮した声掛け・介護を行っている。	利用者の身体的状況や性格などに配慮して声かけをし、自尊心を傷つけないような支援に努めている。不適切な言葉掛けがあった場合は、職員間で注意できる環境である。また、トイレ誘導時の声掛けやおむつ交換、入浴時の着脱などは周りに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日々利用者様とコミュニケーションを取り、思いや希望が表現しやすい雰囲気や環境に努めている。本人の持てる能力を活かして、自己決定を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スケジュールは決まっていますが、無理強いせず、一人一人のペースを大切に、希望に沿って支援しています。外出や買い物などの同行希望に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたら着替えていただき、常に清潔な衣類を着ていただいている。行事や外出時には本人の意見を聞くようにしている。ひげは毎日剃り、整髪は定期的に職員が実施。女性の希望者は化粧やマニキュアを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が準備している。片付けができる方には、食器洗い・テーブル拭き・配膳をしていただいている。行事の期には、ちらし寿司や利用者様の好みを聞いて献立に反映している。	旬の食材を使用して、季節感を大切にした食事を提供している。行事には、ちらし寿司など利用者の希望を反映した食事で、食べる意欲を引き出すよう取り組んでいる。調理は職員がおこなっているが、利用者によっては食器洗いなどの後片付けに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日三食、主食・副菜・水分量の摂取量を記録し、一人一人の状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時には歯科受診実施。定期的に訪問診療、歯科衛生士の定期訪問を受け、良好な口腔状態の維持に努めている。指導を受けて個々の状態に配慮した口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行ける方も、パットの汚れ・装着の確認も実施。尿意を訴えない方も時間を見計らいトイレ誘導し、排便・排尿を促している。排泄チェック表は一日及び月単位で記入し、個々の状況把握をしている。	排泄チェック表で利用者のパターンを把握し、時間で誘導してトイレでの排泄を促している。おむつの利用者には定時や随時の交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれた食事の提供を心掛けている。水分量を把握し不足のないように留意している。リビングに誘導し体力に見合っただけ離床を実施し、下剤に頼らないよう努めている。毎朝ラジオ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は概ね決まっているも、本人の拒否があった場合は無理強いないようにしている。時間をずらしたり日を変えて対応している。	週2回は入浴できるようしており、時間帯や回数等も希望により対応している。入浴は急かすことをせずに、時には利用者と一緒に歌を歌うなど、ゆったり入浴ができるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンや健康状態を把握し、疲れている方には臥床していただいている。眠剤に頼らないよう、安眠環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬ノート・薬剤カレンダーを作り、飲み忘れや飲み間違いしないよう工夫している。服薬説明書を職員で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感が感じられる行事や誕生会を提供している。演歌を聞いたりカラオケをしたり、様々なレクリエーションを提供し楽しんでいただいている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近ではコロナ禍の為、外出は近隣の散歩にとどめている。	コロナ禍前は、季節の花見や買い物ができるドライブ、時には外食で出かけることもあった。現在は、天気の良い日に、利用者の体調を確認しながら近隣の散歩に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の認識や、希望を伝える能力が乏しい方は、職員が援助している。生活保護の方は行政と連絡を取り合って対応している。買い物に行ける方は、同行し援助していたが、コロナの影響もあり、買い物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、季節の花を飾っている。展示物や壁飾りなどに季節感を取り入れている。空調はこまめに調整している。	リビングには、季節ごとに利用者と職員が作った折り紙の作品や花を飾り、季節を感じてもらえるようにしている。利用者の席は、他の利用者との関係性や動線などを考慮し決めている。利用者はリビングで、歌を歌ったり、ゲームやぬり絵などを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、いつでも自由に座っていただいている。他の入居者や職員とテレビを見たり、会話をしたりして過ごしていただいている。天気の良い日には外気浴・日光浴を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を置いていただいている。配置などは本人の状況に応じ、事故のないよう配置している。つまずきや転倒の原因にならないような整理整頓を心がけている。	入居時に、今まで使っていたタンスやテレビ、衣類、身の回りの物などを持ってきてもらっている。家具は利用者の身体状況に合わせて、安全を考慮し設置している。また、居室の清掃も毎日おこない、清潔で安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱が生じないよう、個々の居室に表札をつけている。トイレなどの共有スペースにも表示している。混乱した様子の方には声掛けし、誘導・援助をおこなっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと